

平成29年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念「ともいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

・人を大切にします

ひとりの「人」として向き合うこと。

相手の良さを知り、自分の良さを知ること。

相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。

仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。

行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。

法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。

先が見通せることで保護者に安心感を与えること。

できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。

はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034-3

FAX 026-299-3839

2. 役員会等組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総 括

国においては、平成26年「障害者の権利に関する条約」の批准書が国連に寄託され、平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行、「障害者雇用促進法」の改正が行われました。

平成29年度は社会福祉法人制度改革という大きな枠組みの変化がありました。長野市においては第4期長野市障害福祉計画の最終年度、また第5期(平成30年～平成32年)の障害福祉計画、及び第1期障害児福祉計画が一体的に策定されました。その中でも福祉施設から一般就労への移行促進、職場定着率の向上に向けた具体的数値目標も掲げられています。

当法人では、新しく変わる法律とともに内外研修に参加、また自立支援協議会各種部会に出席し、策定に参加してきています。一方変わることない法人理念の実現に向けて、常に基本姿勢に立ち返りながら支援に取り組んできています。

平成30年度には報酬改定が実施されています。全体としてはプラス改定となっているという説明ですが、当法人としてはマイナスとなっており、厳しい収入状況が予想されます。就労定着支援事業等、当法人としても取り組むべき議論がなされています。これらの動向にも留意しながら、今後も地域の中で必要とされる法人として、サービス提供に取り組んでいきます。

【組 織】

平成29年4月社会福祉法等の一部を改正する法律が施行されたことにより、定款の変更、経営組織である役員等の体制も変更になり、新たなスタートが切られました。

当法人では、理事会、評議員会がそれぞれ牽制する機能を発揮できるように会を開催し、また開示情報として、福祉医療機構が運営する財務諸表等電子開示システムにデータを載せるようになりました。

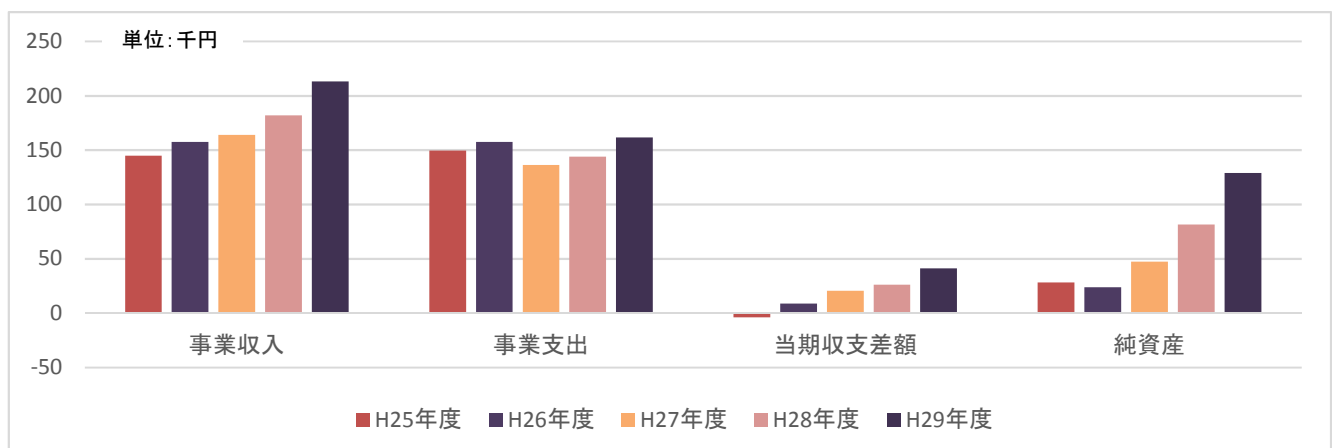
職員組織としては、新たに人材育成、権利擁護、リスクマネジメント、安全衛生の部会を組織し、職員がそれぞれに参加し、日頃からの啓発、また研修などに取り組んでいます。そのこともあり、職員が今まで以上に法人理念、基本姿勢、事業目標に目を向け、考える機会が増えてきました。

【経 営】

社会福祉法人ともいき会 決算推移

(単位:千円)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
事業収入	144,760	157,380	163,886	181,866	213,086
事業支出	149,585	157,403	136,224	143,874	161,610
(うち人件費)	113,799	116,412	102,824	109,993	126,307
人件費率	79%	74%	63%	60%	59%
福祉事業活動資金収支差額	-4,825	-23	27,662	37,992	51,476
就労支援事業活動収支差額	-305	-713	-728	-385	-897
施設整備・財務活動収支差額	1,150	9,633	-6,374	-11,340	-9,308
当期収支差額	-3,981	8,897	20,560	26,266	41,271
純資産	28,288	23,805	47,405	81,637	128,844



当法人の決算推移状況については、それまで恒常的に赤字体質だった経営状況をH26年度から徹底的に見直し、立て直しを図ってきており、一定の成果を得てきています。

収入増加については、事業面では、H29に開所したキャリアサポートセンターの収益が直接的要因として挙げられます。しかしながら、H26年度から職員全員が、経営面に意識を持ち、サービス稼働率の向上や、支出の削減に目を向け、それに対して具体的な対策を立て、実行してきたことで、各事業ともに当初予算より増収を達成することができたことが一番の要因として考えています。今後も継続して取り組むべき内容です。

障害福祉サービス等事業収入は前年比17%増、障害福祉サービス事業における当期資金収支差額は前年比37%増と大幅な増収増益となりました。それらに伴って事業費の支出も増えていますが、精査しながら執行してきました。役員借入分の償還については、上半期に全て繰り上げて償還することができました。

職員、利用者、地域への還元・貢献といった点では、人件費については、6月、12月、3月の賞与への上乗せといった形で還元しました。今後、更に諸規定の改訂、施設整備等含めて検討していくことで、還元・貢献をしていきたいと考えています。

【事業】

平成29年度4月に放課後デイサービス(ウィズキャリアサポートセンター)を開設しました。年度平均稼働率は50%を満たない結果となりました。予約に対してキャンセルが多い現状がみられました。学校行事、本人の体調不良等が主な理由です。積極的な周知活動の成果で、地域での認知度も高まってきました。引き続き細やかな周知活動を行うと同時に、常に登録者の人数を意識していきます。キャンセルを見越した予約の受付方も検討していきます。プログラム内容も、参加利用者ニーズに応じて随時見直していきたいと考えています。

手狭になった生活支援センター(生活介護)の事業所の実施場所について、事業計画通り、平成30年移転に向けて、物件見学等検討を進めましたが見合った候補地もなく選定できませんでした。引き続き、最優先課題として、条件等明確にして情報収集を行っていきたいと考えています。

4. 法人内会議

会議名	回数	主な協議内容	
理事会	2	・4月 5日 理事長選出 ・6月 7日 平成28年度事業報告及び決算報告 ・6月27日 理事長選出 ・11月8日 平成29年度上半期事業報告 ・3月28日 平成30年度事業計画及び予算	
評議員会	1	・6月26日 平成28年度事業報告及び決算報告 - 理事・監事選任	
幹部会	10	・法人経営、運営計画 ・研修内容調整	・年間計画作成 ・職員個別面談の実施
運営会議	11	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討	
各部会議	月1回	・人材育成部会 ・安全衛生部会	・権利擁護部会 ・リスクマネジメント部会

5. 諸会議への参加

- ・長野市ふくしネット(就労部会、かつどう部会、子ども部会、相談支援連絡会)
- ・千曲坂城福祉ネット(子ども部会)
- ・須高自立支援協議会(しごと部会)

6. 職員研修

(1) 外部研修

月	人数	内 容	月	人数	内 容
5月	1人	就業支援担当者研修		1人	精神・発達障害者 就労定着支援フォーラム
6月	2人	障がい福祉サービス従事者新任研修	9月	1人	相談支援従事者現任研修
	1人	巡回訪問支援講座 福岡塾2017		1人	長野市相談支援スキルアップ研修
	2人	相談支援従事者初任者研修	10月	3人	強度行動障害支援者養成研修
	2人	行動援護従事者養成研修		1人	障害者虐待防止・権利擁護研修
	2人	行動援護従事者養成研修	11月	2人	地域発達支援研修会
7月	4人	稲荷山養護学校 見学説明会		2人	南関東ブロック会議経験交流会
	1人	ひきこもり支援関係者研修会	12月	2人	西部保健センター遊びの教室見学
	1人	就業支援担当者研修		1人	障害者虐待防止・権利擁護研修
	1人	精神保健福祉担当者基礎研修		4人	サービス管理責任者養成研修
	4人	就業・生活支援センター連絡協議会 研修会	1月	1人	強度行動障害支援者養成研修
	1人	訪問型職場適応援助者スキルアップ研修	2月	1人	ジョブコーチ研修
8月	2人	権利擁護推進セミナー		1人	就業・生活支援センター全国フォーラム
	3人	強度行動障害支援者養成研修		1人	主任職場定着支援担当者研修
	1人	訪問型職場適応援助者スキル向上研修		1人	精神障がい者就労支援研修
9月	1人	精神・発達障害者 就労定着支援フォーラム	3月	2人	発達障がい就労支援研修
	1人	相談支援従事者現任研修			
	1人	長野市相談支援スキルアップ研修			

(2) 内部研修

月	人数	内 容	月	人数	内 容
4月	5人	新人研修	9月	全員	法人全体研修「防災」
5月	全員	幹部会による職員全員面談	10月	全員	幹部会による職員全員面談
6月		小林茂夫氏による職員面談	11月	全員	法人全体研修「リスクマネジメント」
6月	5人	法人内OJT研修	2月	全員	法人全体研修「新人職員報告会」
6月	全員	法人全体研修「権利擁護」	2月	全員	幹部会による職員全員面談



主な内容、分析

・外部研修として、34研修54名(下半期は13研修22名)の職員を派遣研修として派遣しました。今年度より、より適正で効果的な研修実施を目的として、研修窓口(人材育成部会)を設け、研修案内の周知、研修目的を明確にすることにより、法人の代表としての参加姿勢に意欲がみられるようになり、研修復命書もより濃い内容となっています。併せて、部署内での報告会や全体回覧(コメント記入)をし、全ての研修復命書に目を通すことで他人事ではなく、より関心を持てるようになりました。また、下半期では各部署や各部会からも研修受講希望が積極的になるようになり、興味関心が窺えました。今後も、主体性に重点を置いた意識向上に向けた取り組みの強化と職員のさらなるスキルアップ向上を目指します。

・内部研修として、人材育成部会が中心となり各部会と調整を図り、内部研修の企画運営すすめてきました。10月に実施した「リスクマネジメントについて確認しよう」では、今一度、ヒヤリハットを各部署で出し合うことの重要性等を部会でまとめた統計を基に確認することができました。ヒヤリハットをいけないこととして隠したり黙認するのではなく、法人、部署、職員間で共有することが安全・安心に繋がることを確認しました。2月の全体研修では、今年度入社した新人5名に「1年を振り返り学んだこと」というテーマで発表した。その後、新人職員の「良いところ表彰」をおこないました。改めて、利用者さんや職員の良いところに着目をし、支援にあたることを確認することができました。

7. 苦情受付

件 数	2件
-----	----

主な内容、分析

苦情2件

〔職員の対応〕 (障害者就業・生活支援センター : 虐待防止センターより)

支援時の職員の対応について 本人より虐待防止センターに通報。状況より虐待に該当しないとの判断される。本人の追い詰められた思いに寄り添い、支援方法等の共有を図ることを意識していくことを確認。

〔利用者間のトラブルによるけが〕 (児童発達支援 : 保護者より)

昼食時に箸でケガをさせてしまう。保護者より、相手児童との関係で安心できない等訴えがある。関係者間で話し合いを行い解決する。支援方法、環境設定等再確認する。

今後も引き続き、丁寧な対応、積極的に要望を把握する姿勢をもっていきたいと考えています。苦情を法人に対する要望と捉え、法人内で、その内容を周知徹底することにより、サービスの質の向上に向けて取り組む必要性を感じています。

8. 事故報告

件 数	19件
-----	-----

主な内容、分析

〔件数内訳〕

(発達支援センター:7 生活支援センター:5 就労支援センター:6 ポツセンター:1)

〔事故の分類〕

・発達支援センター(無断外出: 1件 溺れ:外出時の川遊び: 1件 転落:遊具からの転落: 1件)

(公用車 自損事故: 2件 人身事故 : 1件 セキュリティ未施錠: 1件)

※事故要因として、主に支援者間の連携確認不足が考えられます。特に、外出中に発生した、川遊び中の転倒により流される事故は、重大な事故と捉え、事故対策会議を実施し、事故要因を分析し対策の樹立、経過後の検証を行いました。それにより、外出先の環境アセスメントの徹底、人員配置等、事前計画の重要性を再確認しました。類似事故を想定し、全体への注意喚起も含め周知徹底を図りました。公用車による、自損、人身事故が発生しました。ともに送迎中に起きております。安心安全の再徹底、ゆとりある行動の徹底を確認しました。今後、リース車更新の際に、ドライブレコーダーの設置を検討していきます。

・生活支援センター (他害による怪我: 1件 異食: 1件 引率もれ: 2件 転倒: 1件)

※事故要因として、主に支援者間の連携確認不足が考えられます。異食(保冷剤)については、想定外の事故でしたが、「まさか」との決めつけがもたらした事故でした。類似事故を想定し、危険物の管理、環境整備も含め対応整備しました。多くの視点で予測をたてる重要性を学びました。

・就労支援センター (他害による怪我: 1件 ケガ: 1件 物損: 2件 引率もれ: 1件 備品紛失:1件)

※事故要因として、主に支援者間の連携不足が考えられます。施設外就労先での、清掃道具の破損、作業中のケガは、貴重な体験ととらえ訓練内で周知徹底等行いました。

・長野圏域障害者就業・生活支援センター (交通違反: 1件)

※事故要因として、余裕のないスケジュール管理があります。移動時間を考えての行動管理に努めていきます。

9. 身体拘束

件 数	0件
-----	----

主な内容、分析

対象事例なし。生活支援センター 車いす利用の利用者さんで、体位保持ベルト着用されているが、利用時には着用の必要なく、見守りで対応ができています。着用の場合でも、自身で外せるようにして対応している。

発達支援センター(児童発達)での、2階居室での安全確保目的の施錠については現在実施していません。

10. その他

6月29日 、 11月22日 避難訓練



1	事業目的	○就学前児童から学齢期の児童発達支援、放課後等支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援、放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00 放課後等 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間15:00～18:00 (放課後時間に合わせて) 休日9:00～18:00 サービス提供時間8:30～18:00 (休みに合わせて)	
4	職員体制	児童発達 サービス管理責任者1名、保育士2名、指導員3名 放課後等 サービス管理責任者1名、保育士2名、指導員3名 地域生活支援事業 指導員等10名(非常勤職員)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○一人ひとり向き合いながら、遊び・食事・排泄等、できている事、苦手な事をアセスメントし、更にステップアップすることが出来るように、スタッフ間で情報共有し、支援を行いました。	随時
		○個別支援計画に基づいた支援を行い、様子を記録し、振り返りと共有することで、支援内容の統一を図りました。また、新たな可能性や目標、継続の必要性から見直しを行いました。	6ヶ月毎
		○保育園・幼稚園への定期的な訪問、保護者参観・面談を行い、情報交換を行う事が出来ました。	随時
1	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実していきます。	○個々の年齢・発達段階・利用日により、活動内容や活動場所を選定し活動することが出来ました。	通年
		○公共の場でのマナーや交通ルールを学んだり、社会体験を積むことができるよう、季節に合わせた活動や交流を計画、実施しました。	通年
		※<児童>4月:お花見5・6・7月:外出学習(動物園・外食) 7・8月:水遊び・プール活動8月:流しそうめん9月:ポップコーン作り10月:ハロウィン11月:りんご狩り12月:クリスマス会1・2月:雪遊び3月:外出学習(公共交通機関の利用) ・年間を通して:ハーモニー桃の郷の利用・おつかい体験	
		※<放課後>5月公共交通機関を利用したの映画鑑賞6月:いちご狩り7月:ボーリング8月:バーベキュー9月:戸隠牧場10月:戸隠牧場11月:ディズニールンド12月:クリスマス会1月:初詣2月:古代体験パーク ※<大人>外食、ボーリング、カラオケ、ゲームセンター等	
		○登園後の荷物の処理、片付け個人の「お仕事」「役割」とし、自分で行う事が出来るよう支援しました。	通年

		○流しそうめん、ポップコーン作りや節分の豆まき等を通じて他部署の利用者との交流を図りました。	随時
		○将来を考える機会となるように、他センターと連携し就労体験を行いました。 ・学校休業日等、随時就労体験や生活介護の活動に参加しました。	10月 随時
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者との面談や参観、送迎時や電話による連絡を行い、情報共有しながら支援を行いました。	随時
		○保育園・幼稚園訪問、医療機関でのリハビリ見学を行い、情報を共有したり支援の手立てとして役立てることができました。	随時
		○支援会議や自立支援協議会(長野市子ども部会、執行部会・千曲坂城)、地域発達支援会議に参加し、情報交換やチーム支援を行いました。	随時
		○特別支援学校の先生を招き、児童発達全保護者を対象に就学説明会を行いました。	6月
		○年長児の保護者を対象に、放課後等デイサービスの説明会を実施しました。	2月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○センター内・部署で日々の振り返り・ミーティングを行い、支援方法や個別ニーズの共有・検討を行い、支援技術の向上に努めました。	センター (月2回) 部署 (毎日)
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、状況確認と検討、今後に向けて再発防止を図りました。内容についてはミーティング等で議題にし、日頃からの意識付けを行いました。	随時
		○外部研修への参加をしました。 ・地域発達支援会議・学校説明会・保育所訪問巡回相談講座・相談支援従業者初任者研修・強度行動障害支援者養成研修・子ども部会(長野市、千曲坂城)等	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	通年
		○関係機関に利用状況等の情報共有を行い、見学や新規利用につながりました。	通年

(発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H28	年度	24	2	9	7	6	6	1765	71.4%
H29	上半期	25	1	6	10	8	7	1017	84.5%
	下半期	27	2	7	10	8	2	1022	84.5%
	年度	27	2	7	10	8	2	2039	84.5%

放課後等デイ

		登録者数	小学生	中学生	高校生	その他	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H28	年度	49	20	13	16	0	10	2763	95.3%
H29	上半期	40	19	7	14	0	7	1451	98.7%
	下半期	40	19	7	14	0	0	1361	93.5%
	年度	40	19	7	14	0	7	2812	96.1%

○分 析

○児童発達 利用児童が増加し3月現在27名の登録。リハビリ・園行事・感染症等で欠席する児童がいるものの稼働率は増加傾向にあります。保健師・療育コーディネーターからの紹介やパンフレットの効果からの新規利用、見学・体験希望が増え、30年度4月より、3名の新規利用者が確定しています。また、昨年同様、千曲市の利用者が増加傾向にあります。

○放課後デイ キャリアサポートセンター開所に伴い、登録者数に減少は見られましたが、1人当たりの利用日の増加や新1年生等の新規利用者を年度当初から確保することにより、昨年度とほぼ同様の稼働率となりました。新規事業所の開設に伴い、長野市南部や千曲市から新規利用傾向が見られます。また地域の小中学校からの新規利用希望も多く、今年度より地域の小学校への送迎を開始しています。

○数字からは見えませんが、学齢期に放課後、土日等たくさんのサービスを利用していた方々が卒業し、卒後大人のサービスを利用することで夕方の利用者数(タイムケア、移動支援)が増加しています。土日等の新規利用者の受け入れは現在見送っていますが、利用希望は多い状況です。サービス量、種類等課題となっています。

2. 連携

		支援会議		家庭訪問		関係先訪問	
		児童発達	放課後デイ	児童発達	放課後デイ	児童発達	放課後デイ
H28	年度	42	47	14	0	55	49
H29	上半期	25	21	4	0	20	6
	下半期	38	30	2	0	9	12
	年度	63	51	6	0	29	18

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、他サービス事業所)、教育(各幼稚園保育園、各特別支援学校、各学校)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野中央病院、各保健センター)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分 析

○児童発達 昨年度同様、保健師、療育コーディネーターからの紹介で見学・体験、利用に繋がるケースが定着してきました。園と併用している方には園訪問・関係者会議をすることで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には体験交流事業等の情報提供や園開放に同行することで就園のお手伝いをしています。また、昨年度に引き続き、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等を訪問し、宣伝用のパンフレットを置いてもらったり配布をお願いし、相談員と情報交換を行い利用に繋げています。

○各学校における支援会議は日常的なものになりつつあり、学校・家庭・事業所間での共通した支援方法の検討がなされるようになってきました。また、相談支援の更新時期やモニタリングの際にも関係者会議が開かれ、本人の様子や検討事項、事業所利用等について確認、共有をしています。

○放課後デイの関係先訪問について、昨年度はキャリアサポートセンター開所に伴う周知活動が含まれるため、今年度は減少しています。

幼小中高で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、あくまで安心した園、学校生活、家庭生活が送れることを目標に支援に取り組みました。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
3	事業概要	定員10人 平日 開設時間10:00～19:00 サービス提供時間13:00～19:00 土曜・長期休暇 開設時間 9:00～18:00 サービス提供時間10:00～16:00	
4	職員体制	サービス管理責任者1名、指導員2名	
5	事業計画		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	各利用者の想いを聞かせていただき、個々のニーズに合わせて目標をもてるように支援します	○本人、保護者、学校、各関係機関と日常の様子や本人の想い等について情報共有をしてきました。また、講座の様子だけではなく、本人との何気ない会話や利用者同士のやりとりを通して、本人の想いや可能性についてアセスメントをしてきました。	通年
		○本人の成功体験の蓄積や自己実現に向けて本人と目標を共有し、個別支援計画を作成してきました。また、個別支援計画をもとに集団講座のプログラムや個別療育を実施してきました。	通年
1	学校生活等の現在の日常生活を自信をもって生活できるよう支援をします	○集団講座においては、体験を多く取り入れることにより、“できた”という成功体験を通じて、自信向上に繋がるようにしました。具体的には、現在の学校生活や日常生活におけるコミュニケーションスキルを高めていくため、具体的な場面での対応方法を考えたり、ロールプレイを中心とした講座を実施しました。また、生活スキルの向上や社会体験を積めるような講座を実施しました。	通年
		＊先輩・後輩との付き合い方、挨拶の練習、人生ゲームを通じたロールプレイ、友達との関わり方、自分の気持ちを知らう、声のかけ方、パーソナルスペース等 ＊買い物体験、公共交通機関の利用、調理実習、一人暮らしの生活費等	
		○利用者同士で話をしたり、交流ができる空間を提供することで関係を築き、他者と関わるのが楽しいと感じられる体験につながるようになってきました。今後も安心できる居場所作りを図っていきます。	通年
		○個別療育では、学校や対人関係等日常生活での悩みについて問題解決に向けて話し合ったり、個別にSSTを実施しました。また、安心して自己開示ができるような環境を提供し、自己理解を深められるようにしてきました。	通年

1	社会人になるための準備ができるように支援をします	○就労準備講座として将来の自己実現に向けて今から取り組めることを意識することができたり、就労へのイメージが上げられるようなプログラムを実施しました。社会人としてのコミュニケーションについて具体的な場面における対応方法を考えたり、ロールプレイを中心とした体験型の講座を実施しました。 ＊職場でのあいさつ、報告連絡相談、電話の対応、身だしなみ、ちょっとした大人っぽい一言、面接練習、職場見学、履歴書の書き方等	通年
		○高校3年生については、保護者や学校と連携し、卒業後の進路に向けて障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターと連携し、職場見学・実習を実施し、進路に向けて取り組んできました。	通年
1	新規利用者の確保に向けた取り組みを行います 受付目標数:90名 登録目標数:30名	○年間受付者数46名、登録者数27名。 4月1日時点では7名が利用開始し、上半期に11名、下半期9名が新規に利用を開始しました。	通年
		○市町村委託の相談員、特別支援学校、地域の小中学校、高校、親の会、行政等に訪問し、周知活動を定期的実施してきました。また、長期休みには、新規利用者向けの体験講座を企画し、周知活動を行いました。 ○事業内容を知ってもらうため、特別支援学校での出前講座や、地域の高校および養護教諭の会で研修を実施しました。	通年
		○今後も継続して定期的に各関係機関への訪問等による周知活動や新規利用者向け講座等を企画し、登録者の増加を図っていきます。	随時
1	保護者・関係機関との連携を強化します	○保護者との電話、面談や関係機関への訪問、学校との連絡により、情報共有をしながら支援を行いました。保護者との関係強化を図るため、定期的な連絡の際に情報共有や保護者の不安を聞くことに努めてきました。	随時
		○支援会議や自立支援協議会(子ども部会)に参加し、情報交換やチーム支援を行いました。	通年
		○上半期には、保護者向け講座や参観等の企画ができていませんが、必要に応じて保護者と連絡を取りながら情報共有を行っています。その中では、本人への関わり方や今後の進路への不安等を聞くことができました。そのため、今後、保護者の不安を軽減するための保護者向けのカリキュラムを検討していきます。	随時
1	職員の支援技術向上に努めます	○センター内でミーティングを行い、情報共有の他に、プログラム内容の精査、個別支援計画書を含めた課題検討を行い、支援方法・技術の向上に努めています。	週1～2回 毎日
		○特別支援学校等の見学会やハローワーク、障害者就業・生活支援センター等で行っている研修に参加し、支援の資質向上に向けて取り組んできました。	随時

(キャリアサポ別紙)

1. 利用状況

放課後等デイ

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H29	上半期	18	3	3	12	18	486	34.0%
	下半期	27	5	6	16	9	708	46.6%
	年度	27	5	6	16	27	1194	40.3%

※定員10人

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	7	8	14	14	17	18	19	21	22	23	25	27
開所日	20	21	25	24	24	26	26	26	25	24	24	27
定員	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
延人数	35	53	70	86	130	112	111	97	123	106	128	143
稼働率	18%	25%	28%	36%	54%	43%	43%	37%	49%	44%	53%	53%

○分 析

○開所当初4月1日の段階で登録者は7名。上半期に11名、下半期9名が新規に利用を開始しました。紹介経路としては、竹重病院6名、相談支援専門員3名、学校2名、市町村委託相談員1名、相談員6名、療育コーディネーター1名、その他1名でした。

○5月以降、さまざまな講座を組むことで、各登録者の利用増加を図りました。また、5月より土曜の開所、6月には土曜および祝日の開所を始め、開所日の増加を図りました。長期休みについては、外出企画や企業見学等を企画し参加意欲が高まったため、延人数が増加しています。下半期には、忘年会、新年会等時期ごとのイベント講座や調理実習等、利用者が楽しく交流ができる企画を増やし、利用の増加を図ってきました。見学・体験は随時行い、長期休みについては、新規向け体験プログラムを実施し、新規利用者確保に向けて周知活動を行ってきました。今後も参加したいと思われる講座にしていいため、内容を精査していくことが必要であると感じます。

○現在、週1～2回利用する登録者が多いため、登録者を増やしていくことが稼働率の増加につながると考えられます。また、体験につながると利用希望につながりやすいことから、周知活動を継続して行っていく、新規の登録者を増やしていくことが必要と考えられます。

3. 連 携

		支援会議	関係先訪問
H29	上半期	19	50
	下半期	21	50
	年度	40	100

連携先

福祉(市委託相談員(長野市・須坂市・千曲市・坂城町)、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、他サービス事業所)
教育(各特別支援学校、各地域の高校、各小中学校、教育事務所、養護教諭の会)
医療(竹重病院)
行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)
その他(保護者、親の会、若者サポートステーション)

○分 析

○当センターを知ってもらい、活用していただけるよう4月当初から各学校、関係機関に定期的な周知活動を行いました。そのような取り組みにより、見学・体験等の問い合わせが増えてきています。そのため、定期的・継続的な周知活動をしていくことが必要であると感じます。

○6月以降、各学校や関係機関と支援会議を行うことで、共通した支援方法の検討がされるようになりました。また、普段の学校での様子を知ることができ、より本人の身近な課題を講座に反映し、取り組むことができている。さらに学校等の日常生活で成功体験の増加につなげることが可能となっています。また、家庭訪問の実施はありませんでしたが、保護者から卒業後の進路や本人への関わり方、本人のコミュニケーションの取り方等について相談を受けることができました。その都度、情報交換をしながら支援を行ってきました。また、特別支援学校から学生向け出前講座や、地域の学校および養護教諭の会で職員研修を依頼があり、実施していく中で当事業所をしていただく機会や情報交換をしてきました。

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。	
2	事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業、自立訓練事業(生活訓練)
3	事業概要	生活介護 定員14名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00 自立訓練 定員 6名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00	
4	職員体制	サービス管理責任者1名、生活支援員9名、准看護師1名、運転手2名	
5	実績報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者の1日の様子を日誌に記し、ご家族と密に連絡を取りました。本人・保護者からの不安や悩みが強く感じられた場合は相談支援専門員に連絡を取り、必要に応じて支援会議や個別に面談を行う中で利用者や家族の想いを聴かせて頂き支援を行いました。 ○22名の利用者・保護者に対し年間2回の面談と支援会議14件、障害支援区分調査4件を行いました。利用者それぞれに担当を設けモニタリング会議を行い、管理者が個別支援計画を作成しました。 ○作業や支援内容に変更があった際は、ご家庭に相談・報告の徹底を図りました。	随時
1	活動内容の充実を図ります。	○自立訓練では就労移行と連携をしながら支援を行いました。利用者一人一人と定期的に面談を行い、今後の方向性について丁寧に計画を立てました。計画の中で自己実現に向けた活動を展開しました。	随時
		○生活介護の「はたらくプログラム」に関しては、就労組・生活組に分かれて2カ所で作業を取り組みました。 ○外部の事業所から請け負っている内職作業は、就労支援センターと連携し作業を分担して行う事で、週1回定期的に平均3,000個の作業の仕入れ・納品をする事が出来ました。就労支援センターで行っていた、シール貼りを生活支援センターでもチャレンジしました。利用者1人1人に合った道具を作り、改良を重ね1,000個～1,500個のシールを貼る事が出来るようになり、不良も減りました。 ○法人内の清掃作業や利用者宅から金魚すくいのポイ作成・カレンダーの封入作業の依頼が来て納品を行いました。	随時
		○「くらす・あそぶプログラム」に関しては、スタッフ間でプログラムを担当し、スケジュールを立てることにより、スムーズな流れで活動が出来るようになりました。 ・外出: 上田城・象山神社・足湯 等 利用者が増えた事により、2つのグループに分かれて、別日に外出をする事で、安全や利用者の嗜好に配慮して活動が行えました。 ・外食: 2ヶ月に1回(ファミリーレストラン) ・調理実習: 2ヶ月に1回(豚汁・焼きそば・おやつ)	

1	活動内容の充実を図ります。	・映画鑑賞:月1～2回 ・音楽活動:月1～2回 音楽に合わせて身体を動かしたり、ペットボトルで作った楽器や、空き缶などを音楽に合わせて叩いて音を鳴らす練習をし、クリスマス会で発表をしました。 ・創作活動:月1～2回 季節に合わせて絵画・カレンダー作り 等 ・アート活動:2ヶ月に1回 (講師を迎え) 墨遊びや絵の具、クレヨンを使い絵画 ・ジム活動:10月・12月 ・体操:月2～3回 映像を見ながら体を動かしたり、ストレッチ 等。 ・ゴミ拾い:10月・11月 ウィズ近辺	10月～3月
		○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月1回体重測定・保健だより(熱中症・感染症予防)の制作を行いました。 ○利用者の身体状況の変化が見られた際は、保護者に連絡を行いました。また、利用者の平均体温を把握し、早退及び経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○養護学校・生徒の実習生を延べ19名、他事業所からの体験1名を受け入れました。 ○見学者として保護者2名、本人2名、担任3名、相談支援専門員1名に来て頂き、センターの取り組みを説明させて頂きました。 ○定期的に看護学校からの実習生を受け入れました。 ○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明し、利用や実習の受け入れの促進を働き掛けました。 ○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえるような場を作りました(2回)。 ○長野市障害福祉ネットへの参加(月1回)。	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故・苦情・気づきの中から、再発防止に努めるようにしました。各プログラムに向けてのシュミレーションを行う中で、スタッフ間の情報の共有方法について見直しを行いました。 ○スタッフ間でのミーティングでは、個別支援計画の目標に基づいた支援の見直しや確認、情報共有を中心に行い利用者の目標を意識するように努めました。 ○外部の研修に参加し、センター内で報告会を行いました(3回)。	随時
1	自立訓練利用者の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○現在の生活の状況と一緒に確認を行いつつ、必要に応じて、次のステップに繋がるように、関係機関と連携を図りながら、本人主体で自己選択によるサービスの調整を行うことで、これからの見通しを持つことや自立訓練を利用していることの意味を明確にすることができました。 ○定期的にご家族の方とも連絡を取り、家庭での様子や病状等について確認をし、安心して利用してもらえるよう支援を展開しました。	随時

(生活別紙)

1. 利用状況

(1) 生活介護

		期末利用者数	新規利用者数
H27	年度	16	
H28	年度	18	
H29	上半期	20	3
	下半期	22	2
	年度	22	

障害種別

身体	知的	精神	発達
4	13		
4	15		
3	18		
4	18		
4	18		

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
H27	年度	5	5	3	3	4.2
H28	年度	1	7	5	4	4.4
H29	上半期	1	9	6	4	4.6
	下半期	1	7	9	5	4.8
	年度	1	7	9	5	4.8

○分 析

○4月から養護学校を卒業された方が2名、2月から1名、3月から養護学校をこの春卒業された方1名が利用開始となりました。8月からウィズ利用終了となった1名が再度利用開始となり、年度末の時点で利用者が22名になっています。

○養護学校からの実習生が昨年度の10名に対し、約2倍となる19名の受け入れを行いました。その内の半数が、車イスの方で、車イスの方の実習が増加しました。実習希望が多かったため、実習自体の受け入れ日数をこちらで制限させて頂き、希望があった全ての方に実習をして頂くように調整を行いました。

○活動面においては、利用者の人数に対し室内の手狭さがあるため、利用者の増加に伴い引き続き2グループに分けて活動を行いました。センターから外出する際には、1度に全員外出するのではなく、日にちをずらして活動を行う事で、スタッフの混乱や利用者同士のトラブル減少に心掛けると共に安全に楽しく過ごして頂けるようにしました。

(2) 自立訓練

		期末利用者数	新規利用者数
H27	年度	6	
H28	年度	4	
H29	上半期	5	
	下半期	3	
	年度	2	

障害種別

身体	知的	精神	発達
	1	5	
	2	11	
	1	1	3
	1		2
	1		1

○分 析

○4月開始当初は登録者5名。年度末 登録者2名。

○5名の内、2名が利用停止となりました。1名はなかなか出勤に繋がらず「就職よりも自分のやりたいことを優先する」という気持ちが変わらず、6月末に一旦停止となりました。もう1名は、徐々に被害妄想が出始め、体調不良が続きました。主治医より、「被害妄想の対象となると攻撃的になり回復していくためには対象から離れることが望ましい」との助言を受け、支援会議にて協議し、7月末にサービスの停止となりました。

○3名は昨年度から引き続きの利用をいただいています。概ね決められた日程での出勤ができており、欠勤の主な理由は体調不良と通院によるものが主となっていました。12月より1名が、生活リズム・体調面での安定が見られはじめたため、本人への意向により就労移行にサービス変更となりました。就労移行を経て3月に一般就労となりました。

2. 月別利用者

(1) 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	21	22
開所日	20	20	22	20	19	20	21	20	21	19	19	21
定員	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
延人数	293	299	332	299	283	303	303	273	312	282	291	296
稼働率	105%	107%	108%	107%	106%	108%	103%	98%	106%	106%	109%	101%

(2) 自立訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	5	5	3	3	3	3	4	4	3	3	2	2
開所日	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	21
定員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
延人数	55	54	54	51	46	44	49	48	30	27	23	29
稼働率	46%	45%	41%	43%	40%	37%	39%	40%	25%	24%	20%	23%

3. 送迎利用者数(生活介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H28 延人数	329	339	377	336	332	354	332	321	344	310	335	374
H29 延人数	435	492	492	451	419	443	430	401	467	433	435	471

1	事業目的	障害者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加してくことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。	
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援
		助成金・補助金	○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:就労移行20人 開設時間平日8:30-17:30 サービス提供時間9:00～16:00 施設外就労(老人福祉施設での清掃活動)を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。	
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員1名 ○職業支援員2名	
5	事業計画		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一般就労を目指します (目標就職者10名以上)	○就職者数11名。	随時
		○一人ひとりに丁寧なアセスメントを実施し、個別支援計画の作成をおこなってきました。また、隔週で個別支援計画の振り返りの時間を設け、利用者本人が目標を意識して訓練に臨めるよう工夫を行いました。	随時
		○就職に向けた活動を年間計画として作成し、利用者全員が見学、体験ができるように計画的に実施しました。	随時
		○ジョブコーチによるフォローアップを丁寧におこない、支援に入った方の離職はありませんでした。	随時
1	企業内で働く場所を提供します	○施設外就労として、老人ホームにおける清掃作業を実施しました。丁寧な作業をすることを大切にするとともに、清掃作業を通して、手順やルールを守ることの意味、また、企業での作業を行うことで職場でのコミュニケーションの取り方や人との関わり方などの社会性を身に付けられるよう、実際に働いた時のことをイメージしやすいような訓練を提供してきました。	毎日
		○接客業をイメージできるように、スーパーでの店内作業の訓練を実施しました。	毎週
		○企業提携業務として、生活支援センターと連携して、食品封入の作業を実施しました。納期、そして商品としての品質が求められる作業であり、施設内作業であっても緊張感を持って取り組むことができました。	毎日
1	新規利用者確保に向けた活動を展開します。	○各関係機関との連絡をや、定期的な訪問を行い、パンフレットの補充や案内を展開してきました。年度途中からの新規利用者として8名の方が利用に繋がりました。また、法人ホームページを見られての問い合わせも増えてきました。	随時
		○積極的な実習や体験の受け入れを行いました。	随時
		○他事業所からの就労アセスメントの受け入れを3件行いました。その後、利用に繋がったケースが2件ありました。	10月 11月
		○各養護学校への生徒の進捗状況の確認や実習の案内を展開しました。学卒での来年度新規利用者人数4名。	随時
		○例年開催されている自立支援協議会主催の通所説明会の実施がありませんでした。	

1	働くために必要な知識・ビジネスマナーの習得、QOLの向上を目指し、学習会の充実を図ります。	○月に1回、土曜日に生活面のスキル向上を目指した社内学習会の実施をしました。避難訓練を含め、被災時の対応や日常生活における危険の回避や過ごし方について実施しました。	毎月
		○長野圏域障害者就業・生活支援センター、ハローワーク篠ノ井と連携して、模擬面接会や面接の講習会を実施し、スキルアップを図りました。そのため、実際の面接では、緊張をしすぎずに落ち着いて面接を進めることができました。	10月
		○一人ひとりのその時の状況に応じて、適宜その時に必要な学習会を展開しました。学校を卒業してきて初めてスマートフォンを持った際には、事件になる危険性を含めた、正しい使用方法等をタイムリーに実施しました。	随時
		○学習会の日程を、年間計画として作成しました。	4月
1	関係機関と連携を強化します	○OJT推進員としての活動はありませんでした。	
1	職場開拓を実施し、ネットワークの構築を目指します	○長野市自立支援協議会及び長野県自立支援協議会への参加をしました。	毎月
		○合同面接会・ハローワーク求人から新規企業の開拓を行い、ネットワークの構築に努めました。	随時
1	職員の就労支援技術の向上を目指します。	○積極的な法人内部での研修及び外部の研修に参加しました。	随時
		○法人内にて、各種部会に参加をし、研修の実施及び会議を通して、支援技術の向上及び意識の向上に努めました。	毎月

(就労別紙) H29年度

1. 利用状況

		実利用者数	新規利用者数	平均稼働率
H27	年度	13	7	67%
H28	年度	12	5	52%
H29	上半期	20	11	78%
	下半期	18	4	67%
	年度	25	14	73%

障害種別

身体	知的	精神	発達	その他
0	13	11	3	0
0	11	3	7	0
0	10	0	10	0
0	8	2	8	0
0	11	2	11	0

※就労アセス利用者含む

1) 月別利用人数(定員20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	21	21	22	21	20	21	22	20	22	20	20	22
登録者	17	18	20	18	17	15	15	16	15	14	14	12
延人数	320	352	386	335	297	284	308	294	298	254	262	237
稼働率	76%	84%	88%	80%	74%	68%	70%	74%	68%	64%	66%	54%

2) 出身地域別

	上半期	下半期	年度
長野市	14	12	17
千曲市	6	6	7
須坂市	1	0	1

3) H29年度新規利用経路

	上半期	下半期	年度
市町村	0	0	0
就業・生活支援センター	1	0	1
ハローワーク	0	0	0
医療機関	0	0	0
教育機関	6	0	6
相談機関	4	4	8
その他	0	0	0

○分 析

○年間平均稼働率73%。下半期の新規利用者が3名で、内1名は就労アセスメントでの利用。2名は就労アセスメント後にそのまま移行の利用を希望されて利用となっています。また、就労移行を利用していますが、体調を考慮し、出勤日が週2日のため、稼働率としてはあまり伸びない現状でした。

○平成29年度実利用者数25名、就職者11名、B型1名(就労アセスメント利用後)、その他のサービス利用中止が3名でした。

○課題として、①下半期の新規利用者数の減少②年度途中で就職以外でのサービス利用中止(就労アセスメント後B型利用は除く)となった方が3名いたことが挙げられます。

○次年度(4月)より、長野養護学校より3名、稲荷山養護学校より2名、ハローワークからの紹介の方1名(以前に中ボツでの関わりあり)の計6名が新規で利用予定です。継続して利用される方(1名は自立訓練にサービス変更)が9名のため、15名でのスタートとなります。

2. 実習状況

		短期トレーニング	施設外支援	ジョブコーチ支援数
H27	年度	20	21	14
H28	年度	13	13	19
H29	上半期	9	20	17
	下半期	10	18	17
	年度	19	38	22

実習先(職 種)

(上半期)

松代ロイヤルホテル(宴会場準備・片付け)、福田青果システム(野菜果物袋詰め)、キタコー(豆腐作り)、レンゴー(段ボール印字)、ホンダ運動公園前店(洗車)、柄木田製粉(梱包)、西友須坂店、丸善(補助)、デリックくちま(弁当盛り付け)

(下半期)

ブックオフ高田店(商品管理・接客)、特別養護老人ホーム真島の里(介護補助・リネン)、西友伊勢宮店、ルートイン千曲更埴(客室清掃)、コックフーズ(食品梱包)、クリーニングザれもん(クリーニング)、三洋電気(清掃)

○分 析

○上半期に引き続き、下半期も年間計画書に沿って積極的な企業見学(30回/年)を展開しました。見学は昨年度に比べ大幅に増やして実施することができました。業種を知ることで、利用者が各自でハローワーク行き、検索をする幅が広がりました。同時に昨年度よりも、利用者自身が積極的にハローワークを利用することにも繋がりました。

○実習でも同様に、年間を通して計画的な実施ができました。企業や求人票が出されるタイミングの関係もあり、年度末に動きが多くなっていく傾向がありました。

○課題として、卒業後に新しく利用になった方について、個人個人の考えにもよりますが、本人が実習に行きたいと積極的に動くことが少ないと感じました。特に「ゆっくりと時間をかけて就職できれば良い」と考えている人は、声掛けにてハローワークに行く様子が多くありました。これを踏まえて、就職することへの本人のモチベーションの上げ方も工夫が必要と感じました。

3. 就職状況

		就職者数	定着支援件数
H27	年度	6	5
H28	年度	10	9
H29	上半期	6	5
	下半期	5	5
	年度	11	10

就職先(職 種)

(上半期)

松代ロイヤルホテル(会場準備・片付け)、キタコー(食品製造)、レンゴー(段ボール印字)、ホンダ運動公園前店(洗車)、西友須坂店(品出し・接客)、ツルヤ稲荷山店(品出し・接客)

(下半期)

特別養護老人ホーム真島の里(介護補助)、ブックオフ高田店(商品管理・接客)、オリオン精工(製造)、クリーニングザれもん(クリーニング)、三洋電気(清掃業務)

○分 析

○利用1年以内の方も含め、積極的に見学を実施する中、利用期限が迫っている方、見学後に実習を希望する方を中心に実習をおこなってきました。課題として、下半期だけで見学・実習に数か所行かれる方がいましたが、企業側の都合により雇用には繋がらないケースや本人が希望する条件に合わずお断りするケース等就職に繋がらないことが多くあり、一人に対する支援期間が長くなってしまい、他の方の支援が滞ってしまう現状がありました。

○年間就職者数11名で、目標の達成となりました。要因として、年間を通して、計画に沿って、必要に応じて意図的な声掛けを行う中で、意欲的に活動ができ、就職に繋げることができました。

○全体を通して、実習から就職に繋がらないケースが多かったことが大きな要因となり、例年よりも利用期限間近での就職となる方が多い傾向にありました。

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。		
2	事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業	
3	事業概要	開設時間平日9:00～18:00		
4	職員体制	相談支援専門員2名		
5	実績報告			
優先順位	事業目標		実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。		○基本相談はウィズの各センターを利用する方を中心に継続した支援を行いました。相談支援機関として客観的な視点をもてるようにしてきました。 ○兼務専門員は自分の所属する新規利用者の相談支援(就労)に加えて他事業の相談を受けるようになりました。新規利用者を担当することで、その後の利用についても利用者が安心感をもてる等有効な方法でした。	随時
1	計画相談支援を行います。		○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画の作成を行ってきました。 ○相談支援の質が問われるようになり、モニタリングの重要性が増しますが、丁寧なモニタリングができませんでした。	随時
1	関係機関との連携を強化します。		○基本相談、サービス利用を行っていく上で、必要に応じて家庭、行政、教育、福祉、その他機関との連携を行いました。 ○相談支援専門員の質的向上のために長野市で開催されたスキルアップ研修に参加しました。	随時

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H27	年度	49	70	12	43	39	17	2(専従1、兼務1)
H28	年度	56	66	9	44	49	15	2(専従1、兼務1)
H29	年度	61	80	11	49	55	23	2(専従1、兼務1)

○分 析

・平成28年末において、長野市内における利用計画の作成率は、長野市においては作成率は子ども100%、大人98%とほぼ全員に利用計画が作成されているため、件数自体に大きな伸びはありませんでした。丁寧なモニタリングを行うことで、利用者との更なる信頼関係を築いていけるが、中々手が回らない状況がありました。

今後、相談支援専門員の人数配置等で報酬単価の加算、また相談支援専門員一人当たりの担当するケースが設定されるなど、相談支援専門員また事業所としての質的向上がより一層求められるため、人の増員、計画的な人材育成が必要になります。

1		地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、地域に根ざした就業・生活支援に関する総合的な役割を果たすとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2		雇用安定事業・生活支援事業 長野県短期トレーニング事業・長野県OJT推進員派遣事業
3		開所時間:9:00～17:30、月～金
4		所長兼主任就業支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー 3名 主任職場定着支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー(定着支援担当) 1名 生活支援ワーカー 1名
5		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	就職や生活面での不安や悩みを聞き、一緒に考えます。 新規登録者数: 111名 相談支援件数: 10,640件	登録者数 643名(新規130名) 相談支援件数延べ:11,191件 ○本人の想いを受け止めながら面談を重ねました。適宜、関係機関や家族と状況確認を行う他、所内でもこまめに情報共有を行い、相談をしながら進めました。 ○関係機関から紹介を受けるケースでは、事前連絡や面談同席をして頂き、丁寧な引き継ぎを心掛け、ご本人が安心して相談・利用できるようにしました。 ○実習や離職・就職の動きにより、センター内で担当者の変更や複数担当で支援をする場合は本人が安心できるよう情報共有に務めました。	随時
1	職場開拓を実施します。 職場実習を行います。 職場実習斡旋数: 130件 就職件数: 79件	○実習件数:138件 ○就職件数:70件(うち46件 短期トレーニング活用) ○ハローワークと連携を図って、新規開拓をしました。雇用を進める上での留意点や配慮事項・支援体制を説明し、より安心して受け入れができるよう務めました。また、登録利用者の他、地域の就労移行等への呼びかけを行い応募者を募り、職場実習を行う機会につながりました。 ○企業からの制度活用依頼や当センターのみで支援を受けている方の就職活動が積極的だったことで、職場実習件数の増加につながりました。	随時
1	職場定着支援の充実を図ります。 定着訪問件数: 840件 定着率: 91%	○定着職場訪問件数:772件 うち精神障害者に対する職場訪問の割合:2.7割 定着率 89% ○職場訪問の他、来所による面談や電話相談を通じて、定着支援を行いました。本人・企業支援の他、関係機関や家族との連携を図りました。 ○急を要する相談を受けた際には、迅速に対応するよう務めました。昨年度末に行った企業向けの定着支援アンケートへの対応や定期的な定着訪問が不十分でした。 ○主任職場定着支援件数:56件 面談や訪問・支援会議等、より早急に対応をしました。支援の末に離職に至るケースもありますが、家庭との連携や複数の支援機関の関わりがあることで、全体的な支援の手が増え本人の安心安定につながりました。	随時

1	圏域内のネットワークの構築を目指します。	○生活面での連携 委託相談員とは、福祉への移行や住まいの相談、金銭管理について相談や連携を行いました。 ○他機関との連携 研修講師の依頼を受ける等、他機関と連携しました。センターの周知・他機関を知ることが目的として、圏域内の就労移行やB型、役所等に訪問をしました。	随時
1	就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。	○7月、11月(2回)、2月(2回)計5回在職者交流会を開催しました。同じ悩みを共有できるよう、障害別や年齢別の企画を実施しました。参加者に応じた講座内容や進め方ができたこともあり、精神障害者の参加増加となりました。特に講師を招いた企画では、`自分が話さなくてもいい`という安心感があり参加しやすかったという声がありました。全体的な参加希望者の増加に伴いセンター内での開催は手狭だったため、2月には初めて開催場所を借りて実施したところ、参加者から好評でした。 ○就職を目指す段階の方が多かったため、センター主催で合同就職説明会前(9~10月)に少人数を対象としたミニ講座を4回開催しました。個別面談とは違った雰囲気共有でき、有効な企画となりました。 ○新卒の就職内定者を対象に、在職者との交流会を企画しました(2月)。働く先輩の話を聞いたり、卒業後に職場で悩んだ時に相談しやすいようセンターとの関係構築も目的としており10名の参加がありました。同級生と一緒に参加できたり、同校の先輩もいたりして生徒達の自然な姿が見られました。	随時
2	職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。	○県内外の研修には積極的に参加しました。 ○毎日17時~17時45分、ミーティングを行い翌日の支援内容や当日の支援報告をしました。センター内で情報共有や意見交換をして互いの資質向上に努める他、それらを通じて職員1人ひとりが安心して支援ができるようにしました。	毎日

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
H27	年度	631	122
H28	年度	504	111
H29	上半期	550	46
	下半期	84	84
	年度	634	130

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	32	18	210	81	123	10	375
求職中	22	11	71	25	122	11	226
その他	2	2	24	3	6	1	33
合計	56	31	305	109	251	22	634

1) 出身地域別

	上半期	下半期	年度
長野市	391	65	456
千曲市	49	7	56
須坂市	59	4	63
小布施町	4	0	4
坂城町	7	1	8
信濃町	6	1	7
飯綱町	10	1	11
小川村	4	0	4
高山村	7	1	8
その他	13	4	17

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度
ハローワーク	9	15	24
職業センター	2	1	3
特別支援学校	2	19	21
就労移行	6	15	21
福祉施設	2	2	4
行政	2	2	4
直接利用	8	6	14
その他	15	24	39
合計	46	84	130

3) 相談・支援

		件数
H27	年度	8,237
H28	年度	10,596
H29	上半期	5,242
	下半期	5,949
	年度	11,191

4) 月別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所	106	99	126	156	124	95	145	169	112	130	172	103
電話	384	497	505	564	454	560	638	511	455	583	526	426

○分 析

・新規登録者について

就労移行やハローワーク・企業からは職場実習(短期トレーニング制度の利用)の目的による相談、市町村委託の相談員や福祉関係者からは就労の見極めや就職に向けた支援の相談が多いです。下半期は、例年より増加傾向にありました。また、直接利用の方については、ホームページを見て、ご本人やご家族からも相談を受けることができました。特別支援学校からは、卒業後の就職支援のための登録を行いました。

・登録者について

在職者の割合が多くなってきて、就労に向けた支援と合わせて定着支援のニーズが高まりつつあります。

・生活面について

福祉サービス利用につながった相談は16件(就労移行3件、就労継続B型5件、就労継続A型8件)です。新規A型事業所の参入に伴い、利用希望者が増加しました。生活支援ワーカーによる相談については、“就労(40%)”、“不安解消・情緒安定(16%)”、“障害や病状の理解(8.9%)”の相談が多い状況にありました。就労面と生活面の悩みは切り離せないことがわかります。金銭面や生活状況に課題を抱える相談者については、相談支援専門員と連携を図りながら支援をしています。

・相談・支援について

月別は720～1,090件程度を推移しており、今年度は7・10・1・2月に1,000件越えとなりました(月平均930件)。特に第4四半期は、実習件数の増加に加え、学卒の登録や移行支援会議が続き、相談件数が増加しています。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	短トレからの就職率
H27	年度	148	2	24%
H28	年度	122	4	26%
H29	上半期	51	5	31%
	下半期	87	3	37%
	年度	138	8	34%

○分 析

過去2年間の平均実習数は135件であり、平均的な実習件数となりました。過去2年間の年度末における実人数に対しての就職率は25%で、今年度は34%となり高い割合で就職につながっています。相談者の就職活動が活発だった傾向にありました。実習者実人数のうち他の福祉施設を利用していない、当センターのみを利用している割合は増加傾向にあり、過去2年で3割、4割となり、今年度は5割近くになりました。

3. 就職状況

主任職場定着支援ワーカーの相談状況

		就職者数	定着職場訪問
H27	年度	85	471
H28	年度	74	731
H29	上半期	38	377
	下半期	32	395
	年度	70	772

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
業務内容	1	0	10	4	15	0	26
対人関係	0	0	6	2	4	1	11
生活面	0	0	9	6	10	0	19
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	25	12	29	1	56

○分 析

- ・ 就職について
過去2年間の平均就職件数79.5件に対して、70件と減少しました。新規学卒に加え、短期トレーニングを含む職場実習からの就職件数が半数以上を占めています。直接雇用は1割程でしたが、うち4割は早い段階での離職に至りました。
- ・ 定着職場訪問について
昨年の定着職場訪問件数と概ね変わらず安定しています。精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としましたが、26%に留まりました。全ての利用者に対して定期的に訪問を予定することは難しいですが、ご本人やご家族、企業側のニーズに応じて早期対応を図りました。
- ・ 主任職場定着支援ワーカーについて
困難事例は若干減りましたが、昨年と大きく変わらない状況です(去年比-6件)。そのうち、11件は離職に至りました。実習なしの直接雇用の他、実習期間が短いケースが半数でした。会社内での対人関係の問題、健康面、生活面における交友関係・金銭面で状態が悪化すると、立て直しが困難に陥るケースが多いです。早期に問題解決ができるよう、関係機関との連携を図りつつ早めの支援対応が必要であると感じます。